

よみがえれ！有明海・国会通信

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-894-1781
090-9602-0700

斉藤環境相に受賞報告



有明弁護団 韓国ガイア賞

よみがえれ！有明弁護団は、11月29日、島根県益田市において、斉藤鉄夫環境大臣と面

談し、10月に韓国環境府が主催する第一回水環境大賞ガイア賞を受賞したことを報告した。

弁護団から、韓国の環境省にあたる環境府が主催する賞を日本の有明弁護団が受賞したことの意義を報告し、11月に韓国で開催されたラムサール条約締約国会議において「イサハヤ」が無駄な公共事業による環境破壊の代名詞として世界中から非難されていること、開門を命じた佐賀地裁判決が国際的に高い評価を得、開門による有明海の再生が望まれていることを報告した。有明海の漁業者らの希望が、干拓地での農業を否定することではなく、農業と漁業の両立にあること、そのためにも開門が必要であること等も報告。さらには、児島湖と中海を例にあげ水門解放こそ調整池の水質改善につながることを説明した。斉藤大臣は、弁護団からの報告に真剣に耳を傾け、漁業と農業の両立、さらには調整池の水質改善に高い興味を示していた。

自由民主党議員

11月16日に佐賀市内で行われたガイア賞受賞報告会には多数の国会議員が出席し挨拶を行った。
○広津素子衆議院議員「有明海は日本の干潟の象徴。諫早において下水処理水を農業用水として利用することで水門開放が可能。諫早は水の循環型社会のモデルになるべきです。」

民主党議員

○原口一博衆議院議員「農水省は嘘を言う。農水省には自分たちが有明海を壊しているという認識が全くない。」
○大串博志衆議院議員「農水省のアセスは時間延ばしにすぎません。」

日本共産党議員

○赤嶺政賢衆議院議員「水産業が国の政策で破壊されている。海の再生に向け司法で頑張り、農水省と交渉し、国会議員とともに頑張っている弁護団や原告、支援者の姿に圧倒されます。」
○仁比聡平参議院議員「ガイア賞受賞を、まず『有明海』に報告したい。勝つまで続けるというのが勝負の秘訣。本当の勝利は裁判所の外にある。開門を実現しましょう。」

佐賀県議会議員

○竹内和教県議(自民)「控訴をしないよう働きかけてきました。」
○坂口祐樹県議(自民)「水門は開くと信じています。」
○篠塚周城県議(自民)「県議会も中長期開門調査の決議を再三採択してきました。今後も有明海の再生のために頑張ります。」
○武藤明美県議(共産)「税金を投入した児島湖や中海でも水質浄化の効果が出ていない。農水省のアセスなんか待っていただけません。」